

たばたあずみ



Tel・Fax
550-6674

山根とみえ



Tel・Fax
550-4224

戸沢ひろゆき



Tel・Fax
558-9721

9月定例会

戸沢ひろゆきの一般質問

(1) 空家等対策の推進に関する特別措置法案に対する市の見解は

あきる野市内に、空き家が増え防災や衛生上地域住民に深刻な影響が生まれている。そこで問う。

質問

- ① 市町村は、国の基本指針に即した、空き家等対策計画の策定が求められ「協議会」の設置が義務付けられようとしている。市の対応は。
- ② 空き家等について、市町村長が法律の規定に準じて立入調査が出来る条例を制定すべきである。また、立ち木等の伐採の指導が可能となるようにすべきである。市の対応は。
- ③ 空き家対策について費用等の財政的・税制上の措置等を行う「相談室」をつくることを求める。



管理されていない
空家が目立つ

回答

- ① 現状分析を行っている。法の制定や国の動向を注視しながら、都市環境の維持に資する対策を進めていく上で「協議会」の設置について検討したい。
- ② 市内建築物の93%が居住系建築物、持ち家率が75%です。市民のみなさんの空き家問題に対する意識の醸成を図り、空き家を発生させない機運を高めていきたい。住環境への影響度合いに配慮し、法の規定を踏まえて条例制定について検討していきたい。
- ③ 建物や所有者等の意識調査の結果を踏まえ実情に即した支援策等のあり方を検討、空き家対策を構築したい。

質問

(2) 観光農業の振興について

あきる野市の基幹産業は歴史的にも農業と林業である。ややもすると外部からのハイテク企業の誘致や大型店舗の誘導が産業振興のような錯覚がある。しっかりと農業政策を打ち出し、農業後継者を育て、農業で生活ができるようにしていくことが肝要である。そのために「まちづくり計画」に観光農業政策をしっかりと位置づけすることが必要だと考え以下問う。

- ① ブルーベリー、イチゴ、トマト、柚子、栗、ハチミツなどの観光農業に展望があるが、市の農業政策を問う。
- ② 2カ所のファーマーズセンターを一層充実させ体験的な農業政策を打ち出し、農家に市が「やる気」だと感じてもらえる農業振興施策を

展開することを求め、市の見解を問う。

回答

現在、市内にはブルーベリー農園がありますが今後はイチゴやトマトなどにも観光農業は可能性ががあります。地産地消型農業を推進していきたい。秋川ファーマーズセンターは東京都を代表する直売所であり再整備が必要です。プロジェクトチームで検討している段階です。農業経営の安定化につながるよう、建設的で積極的な協議を進め、実現していきたいと考えている。

ブルーベリーを
収穫する親子



法律相談

10月23日(木) 13時30分～15時

予約が必要です。市議団までご連絡ください。